



◀女性用上衣(コリヤーク/ロシア/当館蔵)

シベリアのツンドラでは、
大規模なトナカイ遊牧がお
こなわれてきました。

トナカイには橇そりを引かせ、人や荷物を運ばせ
ました。

乳搾りはあまりおこなわれず、もっぱら肉が
食用として利用されてきました。

▶トナカイ橇そり
(コリヤーク/
ロシア/2003年・
大島稔氏撮影)



from Mongolia to Siberia



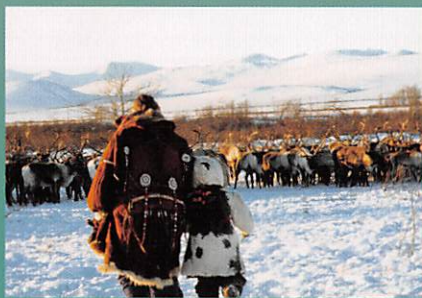
投げ縄でトナカイを捕まえるコリヤーク(ロシア/1996年・大島稔氏撮影)

遊牧は、農耕には適さない「不毛」な土地でも、
家畜の餌となる草と水さえあれば営むことがで
きる生活様式です。



人間は、家畜の力を借りて北アジアの草原に
進出し、タイガでのトナカイとの出会いを経て
ツンドラへと広がっていくことができたのです。

協力：野外民族博物館リトルワールド
日本・モンゴル民族博物館
京都嵯峨芸術大学附属博物館
石井智美氏 大島 稔氏
呉人徳司氏 西村幹也氏
思 泌夫氏 阿比留美帆氏



冬の遊牧キャンプ地
(コリヤーク/ロシア/1996年・大島稔氏撮影)

▶表写真：移動式住居「ゲル」(モンゴル/2001年)

 **北海道立北方民族博物館**
Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市字潮見309番地1(天都山・道立オホーツク公園内)
Tel 0152-45-3888/Fax 0152-45-3889/E-mail hoppohm@ohotoku26.or.jp
http://www.ohotoku26.or.jp/hoppohm/

NOMADS OF THE NORTH from Mongolia to Siberia

北の遊牧民

モンゴルからシベリアへ

2004. 7.17(土) ▶ 9.26(日)



- ◆休館日 9月：月曜日(9/20は開館), 9/21(火)
(7/13(火)―8/31(火)は無休です。)
- ◆開館時間 7・8月 9:00-17:00, 9月 9:30-16:30
- ◆観覧料 一般 450(360)円
高校生・大学生 150(120)円
小学生・中学生 70(40)円
※()内は10名以上の団体料金

北アジアの草原（ステップ）からシベリアの針葉樹林（タイガ）、そしてツンドラまで、北方ユーラシアに広がる遊牧文化の流れをたどり、遊牧社会における生活様式、人と家畜との関係を紹介します。



◀馬頭琴(モンゴル/日本・モンゴル民族博物館蔵、京都嵯峨芸術大学附属博物館写真提供)



▶ウマの鞍(モンゴル/2002年)



◀儀礼用匙(モンゴル/日本・モンゴル民族博物館蔵、京都嵯峨芸術大学附属博物館写真提供)

春から夏は家畜の出産・子育ての時期に当たり、乳搾りができる季節です。乳は、30種余りとも言われるほど多様な乳製品に加工されます。秋から冬にかけて、家畜は寒さに備えて丸々と太り、食生活の中心は肉になります。



授乳のため子ヒツジを母ヒツジに引き合わせる(モンゴル/2004年)



トナカイに乗るツァータン(モンゴル/2004年)

北方の針葉樹林（タイガ）では、狩猟とトナカイ遊牧が並行しておこなわれ、トナカイは、人や荷物の移動・輸送手段として利用されています。



◀トナカイの鞍(エベンキ/中国/野外民族博物館リトルワールド蔵)

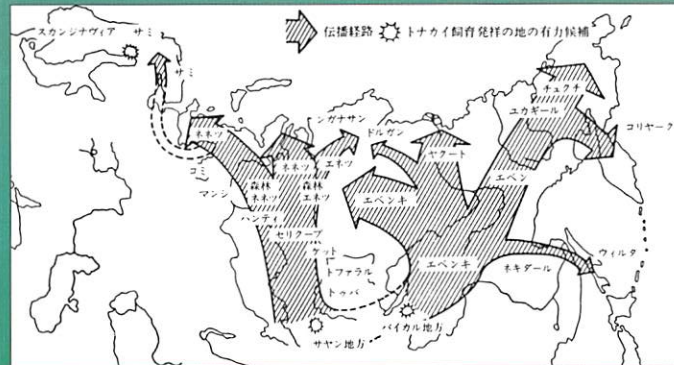
北の遊牧民

—モンゴルからシベリアへ

NOMADS OF THE NORTH

モンゴルの草原では、5種類の家畜—ヒツジ、ヤギ、ウシ、ウマ、ラクダ—を飼育し、乳や肉、毛皮などの畜産物によって生活してきました。大型の家畜は荷物や人の運搬にも使われます。

遊牧民は、移動式住居「ゲル」(表写真)に暮らし、季節ごとに家畜とともに移動する生活を営んでいます。

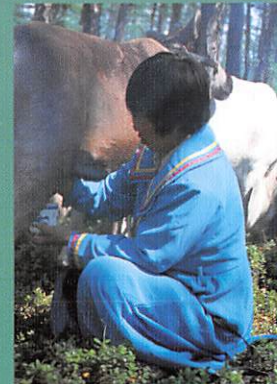


予想されるトナカイ遊牧の伝播経路(佐々木史郎 1984「シベリアのトナカイ遊牧」より[一部改変])

遊牧文化のなかでもっとも北に位置するトナカイ遊牧は、北アジアのステップのウマ飼育技術を取り入れることによってタイガ地域で発生し、そこから北上してツンドラ地域に広がっていったと考えられています。

トナカイの乳や肉は食用にされ、袋角は漢方薬の原料として売られています。

▶乳搾りをする女性(エベンキ/中国/1997年・思泌夫氏撮影)



ウシの放牧(モンゴル/2002年)



◀トナカイの乳容器(ツァータン/モンゴル/当館蔵)